

実践紹介2 (小学校5・6年)

アニメでアフレコ

なか しま ゆ み こ
中島由美子
宝仙学園小学校 教諭

本校では、「ICTは学びの道具」とし、全教育活動において1人1台端末の利用を数年前から進めてきました。英語の授業でもあらゆる場面でiPadを使用しています。子どもたちもかなり使い方に慣れており、さまざまな活動で自立してiPadを活用しています。

アニメーション動画を活用

このような環境の中で『Here We Go!』のデジタルコンテンツは、本校の英語活動にとってもマッチしていました。特に各Unitに付随している2～3分程度のアニメーションはとても質が高く、ターゲットとなる単語・表現がふんだんに含まれています。また、ストーリーがしっかりしており、自然な英語が会話表現として使われているため、英語が苦手な子どもにとっても



個性的で親しみやすいキャラクターとストーリー

内容が追いやすくなっています。そのアニメーションに登場するキャラクターが、それぞれとても個性的で、Unitを通してずっと登場するので、子どもたちも親しみを感じているようです。

しかしながら、せっかく自分のiPadでいつでもアニメーションを観ることができる環境にあるにもかかわらず、授業以外で観る機会は少ないようでした。アニメーションを繰り返し観ることで、学んでほしい単語・表現を定着させたいと思い、なんとか自発的にアニメーションを観てくれないものかと考えていました。

アフレコ活動

そこで思いついたのが、そのアニメーションに登場するキャラクターの口の動きに合わせて声を吹き込むこと(アフレコ活動)でした。英語劇などと違って、小道具を作ったり、舞台を用意したりする必要はありません。アフレコだと声を入れるだけなので、子どもたちもセリフにだけ集中できます。また、人前で話すのが苦手な子どもも、アニメーションの中に出てくるキャラクターになりきることで、大胆に演技できます。アフレコとなると、ただセリフを言うだけでなく、感情も大きく表現しなくてはいけません。



こちらから、実際に作成された作品を見ることができます。



アフレコ活動に取り組む子どもたち

ん。さらにアニメーションの口の動きに合わせてはいけませんので、何度も練習することになり、流暢さが身につきます。そしてなんといっても、アニメーションを繰り返し観るという本来のねらいが簡単に達成されます。子どもたちは自分のセリフを練習するため、また友達とタイミングを合わせるため、何度も何度もアニメーションを観ることになり、楽しく自然な形でターゲットの単語や表現を学んでいきます。グループ活動となるので協力的な学びにもつながりやすくなります。事実、グループの中で英語の得意な子が、少し不得手な子どもに一生懸命教えている様子が散見されました。まさに学習者中心の活動といえます。

フィードバック

それぞれのグループのアフレコ作品ができあがると、今度はそれをみんなの前で発表します。といっても、声を入れたアニメーションを流すだけなのですが、これがとても盛り上がります。観終わった後はそれぞれの作品に対して、みんながフィードバックを行い、最後に優勝グループを投票で決定します。このフィードバックを通してそれぞれが学んだことを生かし、また次のUnitの新しいアニメーションのアフレコに挑



作品の発表会はいつも大盛り上がり

戦します。このインプット(アニメーションを観る)とアウトプット(アフレコをする)、フィードバック(友達からフィードバックをもらう)のサイクルは今後の学習に生きていきます。

アンケート結果

この活動を通して、日頃は英語への苦手意識をもっている子どもがとても活躍しているなど、普段とは違う面を垣間見ることができました。活動の後でアンケートを取ったところ、56%が「とても楽しかった」、12%が「楽しかった」、20%が「まあまあ楽しかった」と答えていました。また「自分の英語力がアフレコを通して伸びたか？」に対しては12%が「とても伸びた」、23%が「伸びた」、37%が「まあまあ伸びた」と回答していました。教科書の理解度に関しては、77%近くがアフレコ活動の後で「以前より教科書の内容が理解できるようになった」と回答していました。そして、多くの子どもが「次のUnitに移った際に注意深くアニメーションを観るようになった」と答えていました。

エピソード

『Here We Go!』6のUnit 3 What do you want to watch?では、オリンピックをテーマにそれぞれのキャラクターが、どの競技を見たいかを話しています。その中で、将太は「どの競技が見たいの？」と友達にきかれます。将太は、オーストラリア出身のリリーに「君とサーフィンが見たいんだ」と答えます。教室は、二人の関係性についての話で大はしゃぎです。そのUnitのアフレコをするにあたって、誰が将太とリリー役を演じるのかで大騒ぎになると思っていたところ、なんと、男子が高い声を使って

リリーの役を演じているグループがありました。これには教室中が盛り上がりました。

私もそのアイデアを楽しませてもらったと同時に、子どもたちが話の内容を理解して楽しんでいることに感心しました。声を当てた作品の中には、プロの声優が演じているのではと思うほどに高いレベルのものもあり、期待をはるかに超える子どもたちの力に感動しました。

アフレコ活動の教材の作り方

子どもが声を当てる動画は、『Here We Go!』の学習者用デジタル教科書から視聴できるアニメーションを加工して作成しました。iPadで、アニメーションを字幕付き状態で再生し、それをiPadの「画面収録」機能で録画します。この手順で、字幕付き音声なしのアニメーションを作成することができます。それを本校では、クラウド型授業支援アプリのロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)を使ってそれぞれの子どもに配布しました。その際には、台本として、『Teacher's Book』(指導書)に掲載されているセリフのスク립トもコピーして配布しました。

子どもたちは音が入ったアニメーションを自分の端末で観ながら練習した後、グループごとに配布された、音が消されたアニメーションに自分たちの声を入れます。ロイロノートには声を簡単に録音できる機能があるため、それを使用します。

録音したデータはロイロノート上で提出させ、それを教師のiPadからスクリーンに映してみんなで鑑賞します。

この一連の操作は、慣れれば問題なく行うことができます。

途中で間違えたときのことを考えて、1シーンごとに録音をして編集するという工夫をするグループも出てきますが、基本的にはワンテイクで撮るように伝えています。これは子どもたちにはかなり大変な作業で、途中で誰かが失敗するとまた初めからやり直しとなるので、緊張感をもって取り組んでいました。

アフレコ活動は、楽しみながら繰り返しストーリーを学べる方法の一つです。また、友達と協働で何かを作り上げることで、自己肯定感の向上にもつながる活動でないかと考えています。

アフレコに使用する動画の準備、録音方法(iPad)

- 1 「設定」>「コントロールセンター」と選択してから、「画面収録」の横にある $\oplus$ をタップします。
- 2 iPadの画面右上からスワイプしてコントロールセンターを表示させ、 $\odot$ をタップします。3秒間のカウントダウンの後に録画が始まります。
- 3 アニメーションを字幕付きで再生します。
- 4 録画を停止するには、コントロールセンターを開き、 $\bullet$ をタップするか、画面のいちばん上にある赤いステータスバーをタップし、「停止」をタップします。
- 5 コントロールセンターを開き、 $\bullet$ をロングタップします。「マイク」をオンにして「収録を開始」をタップします。①～④で作成した動画を再生してアフレコを行い、音声を録音します。

※ iPad以外の端末でも、基本的な機能を使用して動画を準備することは可能です。